



1. 竹林の現状

過去

- ・京都市は有数のたけのこ産地
- ・伝統的栽培体系 京都式軟化栽培による丹念な竹林の手入れ
- ・建材、竹細工等による市内産竹の消費

↓

現在

- ・農家の高齢化
- ・作業負担の大きさ
- ・竹材消費の減少

⇒ **放置竹林の増加**

- ・景観の悪化
- ・伝統的栽培体系の衰退

2. 竹林整備の意義

・ 放置竹林の影響

- ⇒ 伝統的栽培体系の衰退
- 景観の悪化
- 土壌流亡
- 元からある植生の損失
- 倒竹による被害

・ 整備された竹林の役割

- ⇒ 良質なたけのこ生産
- 良好な景観形成
- 土壌確保
- 二酸化炭素貯留

3. 京都市事業概要

① 市民グループによる竹林景観改善の取組

西京区大原野北春日町、小塩町
⇒ 現在、2グループが活動中

② 新規たけのこ栽培農家育成の取組

西京区大原野小塩町
⇒ 現在、1名の新規栽培希望者が活動中

③ その他

竹の利活用方法の検討

※事業名：平成28・29年度京都竹の里再生モデル事業
(NPO法人京都発・竹・流域環境ネットに委託して実施)

4. 社会貢献活動としてできること

① ボランティア活動

- ・企業としてボランティア登録
- ・毎年継続的に企業職員が竹林整備活動(竹の伐採、玉切り、棚積み(ほか))

② 市内産竹の活用

- ・竹林整備で出た竹の買取りや加工販売等、活用促進
- ⇒ 継続的な竹林整備の促進

③ 各種取組に対する支援

- ・①②を始めとした竹林整備に係る取組に御賛同いただける場合の協賛金

5. 参加のメリット

① 環境保全

- ・景観保全
- ・二酸化炭素貯留による環境保全

② 福利厚生

- ・竹林整備活動や、たけのこ掘りを福利厚生として活用可能

③ 企業のイメージアップ

- ・「景観・環境保全活動」による外部へのイメージアップ
- ⇒ 竹林や竹産物を京都のイメージと絡めて宣伝力アップ
- ・福利厚生の向上